





2 特集 令和3年度 春の宿泊研修 in甲賀市・湖南市

14 紹介 将来県内で地域医療に貢献する 意思を持った医学生に対する 滋賀県の取組

Contents

13 _{紹介} 滋賀県医師キャリアサポートセンター

16 編集後記

■2年ぶりの『宿泊研修』を開催して



滋賀医科大学里親学生支援室 室長 相見 良成

2007年、文部科学省の学生支援事業として始まった「里親学生支援事業(里親GP)」は今年で15年目を迎えました。この事業の柱のひとつとして春夏の年2回開催しておりました『宿泊研修』は順調に回を重ね、第24回目の研修が「甲賀市・湖南市方面の医療と歴史・文化を学ぶ(令和2年3月)」として予定されておりました。しかしながら周知のごとく、新型コロナ感染症の感染拡大の影響で中止され、その後の宿泊研修は延期となっていました。

「なんとか再開したい!」と支援室では考えておりましたが、ようやく令和4年になり「再開できそうだ」ということで、令和4年3月の開催を計画し、実施しました。

計画にあたっては、

- ・宿泊は行わない
- ・できるだけ現地での実際の見学を行う
- ・見学グループを小さくし、さらに食事の機会をなくすことで感染予防につとめる こととし、その結果、
 - ・複数の見学を同時に並行して行う
 - ・勉強会は遠隔で行う
 - ・懇親会は行わない

というスタイルで計画し、ようやく実施することができました。訪問施設のご協力に深く感謝 いたします。

具体的には、

- ・二手にわかれて2台のバスに分乗して、午後に滋賀医大を出発
- ・「紫香楽病院」の訪問見学、「信楽の街探索」を並行して実施
- ・グループを組み替えた後、「水口病院」「こうせい駅前診療所」を並行して訪問見学
- ・全員で公立甲賀病院を訪問し、医学生、看護学生に分かれて病院見学
- ・その後、滋賀医大に戻り「勉強会」を開催

という内容です。内容の詳細については本誌の別頁をご覧ください。

今回の研修は半日の研修となり、「宿泊を伴う研修」の再開とならなかったこと大変残念に思います。しかしながら、これまでの宿泊研修をほぼ全回経験してきた私としては、半日ではありましたが「現地を訪問し、五感で地域、地域医療を感じる」ことの意義の大きさを再認識した次第です。時間をかけてじっくり施設を訪問し、地域の医療者、医療行政担当者、里親・プチ里親の皆さんと直接の会話を通じて学べる「懇親会」をも含めた、宿泊を伴う『宿泊研修』を再開できることを切望しています。

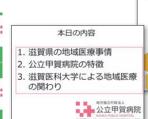
■勉強会報告

現地での施設の訪問見学に引き続き、滋賀医大に帰学後に遠隔授業システム(ZOOM)を 用いての勉強会を行いました。

【公立甲賀病院 辻川 知之 院長 による講演会と質疑応答】

辻川院長より、滋賀県の抱える医療問題、公立甲賀病院の役割、滋賀医大における医療人の 育成などについて、お話しいただきました。





育成するにはどうするか?



信楽中央病院 中島院長



琵琶湖病院 稲垣部長

これに対して学生から「滋賀で地域医療を行う魅力は?」「医師偏在の悪影響は?」「滋賀県人の患者気質は?」などの質問がなされました。今回は残念ながら現地訪問がかなわなかった信楽中央病院 中島院長がこの遠隔での報告会に参加され、質疑応答の中で「医療偏在、地域格差」についてのコメントをいただきました。さらに琵琶湖病院思春期青年期治療部稲垣部長からもコメントをいただきました。

【現地訪問の相互報告】

今回は帰学後にお互いの訪問の報告を行いましたが、「経験をすぐさま言語化する」という ことで、経験をより深めることができたようです。また報告を聞く側も相当リアルに訪問を疑 似体験することができたように思います。

【参加された方々からのご意見ご感想】

上記の方々に加えて、公立甲賀病院地域医療連携部 西村看護師、甲賀市福祉医療政策課 熊野係長、プチ里親である彦根市の地域医療を守る会 川村代表からご感想をいただきました。



公立甲賀病院 西村看護師



彦根市の地域医療を守る会 川村代表



甲賀市福祉医療政策課 熊野係長

以上の内容で今回の勉強会を終了しました。これまでの様に勉強会後に懇親の場を持てなかったことは残念でしたが、有意義な時間を持つことができたと思います。開催にご尽力いただいた皆様に、心より感謝いたします。(文責:相見)

春の宿泊研修in甲賀市・湖南市

令和4年3月17日休に、2年振りとなる宿泊研修を実施しました。 コロナの影響により、日帰りでの実施となりましたが、学生23名(医学生13名、看護学生10名)が参加しました。

信楽の街散策

「信楽陶芸村」にある登り窯を見学し ました。店主の方に登り窯の説明をし ていただき、タヌキの焼き物などの由 来について学びました。



地域散策では地元に根付いた産業を中 心に学ぶことができました。

(参加学生感想より)

信楽散策では、話やバスからの景色から、 同じ滋賀県でも地域が違うと景色や近 所との交流が異なっているということ を改めて理解することができました。 (参加学生感想より)

















大野院長のご挨拶のあと、金診療部長 から病院の概要について説明を受けま した。中島教育担当看護師長より重症 心身障害児(者)の看護について説明し ていただきました。

最後に鳴門副院長より療育指導室内の 案内をリモートでしていただきました。







光やアロマでリラックスできる部 屋など患者さんが生活する空間を 大切にされていると感じました。 患者さんと接するときはまず視界 に入って自分がここにいると示し てからタッチング、重心患者さん それぞれの反応を知るなど長く患 者さんと関わる中でそれぞれの患 者さんの特徴を知り信頼を築くと おっしゃっていた点が印象に残り ました。

(参加学生感想より)



研修を通して甲賀・湖 南地域が持つ歴史や文 化を知るとともに、そ の地の医療体制や現状 について学ぶことが出 来ました。実際に現地 に向かい見学やお話を 聞くことで、これから の医療を支える一員 としての自覚を感じ、 もっと地域医療につい て学びたいという気持 ちが強くなりました。 (参加学生感想より)

卒後も滋賀県にとどまり地域医療に関わってい くことになると思うので、今回の研修で学んだ 医療機関と地域住民との関わり方を大切にして いきたいと思う。 (参加学生感想より)



講演:『地域における公

滋賀医

公立甲賀病院

17:35~18:30





水口病院

與那城看護部長から病院の概要について説明をしていただき、その後、病院内を案内していただきました。最後に青木院長からご挨拶があり、学生からの質問に答えていただきました。







水口病院で印象的だったのは地域の住人との関わり 方についてである。精神科の病院ということで、昔 は腫れ物のような扱いを受けていたが、現在では地 域のお祭りの開催地となっているところを知り、医 療と地域の関わり方の模範例の1例を見ることがで きた。その職員の方々のホスピタリティに触れて、 それが可能になるのも頷けた。(参加学生感想より)

こうせい駅前診療所

佐々木所長に診療所内を案内していただいた後、施設の概要について説明をしていただきました。また、生協の湖南甲賀支部の市川事務局長より、診療所が出来るまでの経緯などを説明していただきました。







生協組員の方と一緒に診療所の運営やイベントの企画をされていました。佐々木先生の「境界をつくらずになんでも診る、できる限りのことはする」という言葉がとても印象的でした。

(参加学生感想より)

住民と意見交換を重ねて作 られた建物はかなり広めの動線も余裕の動線も余裕の動線をかけるる場所で、杖をかけるる場所でいた。また、病児保育でいた。また、病児保育でいた。また、高齢者向けの交流イベント時間など、の医療が届けられて広義の医療が届けられているなと感じました。

(参加学生感想より

(Zoom配信) 講演・意見交換等

立甲賀病院の役割、 大理事からみた地域医療』 院長 辻川 知之 氏

意見交換会



公立甲賀病院

辻川院長より病院の概要を説明していただき、その後、医学科・看護学科の 2班に分かれて病院内を案内していただきました。





リハビリテーションが充実していて、治療後に普段の生活に戻ってもらうところまで意識されていて、回復期への移行の重要性を感じました。

(参加学生感想より)

滋賀の中だけでも様々な特色の病院があり、それぞれが住民の 方々のために機能連携していることを知ると、他の病院の見学に も行ってみたいと感じました。 (参加学生感想より)

今回も地域の方々をはじめ沢山の医療関係者等の方々にご協力いただき、学びの多い研修となりました。 ありがとうございました。

■ 訪問先の皆様からのメッセージ ==

■宿泊研修を受け入れて

水口病院 院長 青木 治亮



3月17日、延期となっていた里親学生支援事業での病院見学を迎えることが出来ました。残念ながら、事情により短時間に制限された中で開催だったので充分な対応とはなりませんでした。それでも、来院された学生さんは熱心に見て下さりました。私たちが取り組んでいる医療・介護の理想の一端を共有して頂けたのではないでしょうか。

これから皆さんが生きて行く時代は、今よりもっと高齢化が進んでいるでしょう。そして、程なくして「病」や「死」が追いかけてきます。勿論、生命科学、殊に医学の進歩も期待されます。不充分な部分はあれども社会保障も何とか維持されているでしょう。一方で「死」に至る過程が、日常から遠ざか

りリアリティを失ってしまわないか心配しています。しかし、 どんなに足掻いても、確実に「老い」は存在しています。

私たちは精神科医療に携わる者として、このプロセスに幅広い選択肢を提供し、最期のライフスタイルすらも楽しめるような高齢化社会を目指しています。今の騒ぎが収まり、静穏な日常が戻りましたら、改めてお話ししたいと思います。機会があれば、是非にも再訪下さい。



■宿泊研修を受け入れて

水口病院 看護部長 與那城 隆幸



宿泊研修での病院見学受入れは、新型コロナウイルス感染対策の影響をうけて順延しておりましたが 3月17日に水口病院の見学、意見交換を行なう事ができました。

見学場所も限られタイトなスケジュールでしたが、現代の精神科病院の実状を感じていただけたかと思います。見学中に学生さんからの感想として、『窓が大きく明るいところが一般病院と違う。イメージと違った』『全体的に明るい』など、様々な意見をいただきました。当院が目指している開放的でホスピタリティを意識した環境づくりを体感いただけたのではと感じております。

今後、日本の病院と地域との連携については"精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築"が

求められており、それぞれの病院が地域での役割を確認しながら多様な精神疾患等に対応できる連携作りが大きな目標になります。当院も甲賀地域の各病院との連携を強化しながら、あらゆる世代の患者さんや市民を支えて行けるように取り組んでおります。

甲賀地域の医療·文化に興味がある学生さんがおりましたら、 是非甲賀の地でお待ちしております。ありがとうございました。



■コロナ禍の家庭医・総合医の グループ診療と生協診療所の役割

医療生協こうせい駅前診療所所長 所長 佐々木 隆史



(滋賀医科大学 医学科23期生)

一般診療所に、発熱患者さんが押し寄せて、診療所の発熱外来が大普及した第6波の終わりかけの3月に来ていただきました。本来は、半年前に来ていただく予定でしたが、その時は5波の真ん中で、延期になりました。患者さんへの影響を考えると仕方のないことですが、今のところ100年に一度といわれているこのコロナ禍を、将来の医療を担う学生さんが現場から遠ざかっているのは、もったいないと思っていました。流行期は避ける形で、オンタイムに診療時間外ですが、現場を見ていただいたのは良かったと思います。

当院は、総合診療を軸とする常勤 2 名体制で午前中は 2 診体制で外来診療を行っています。普段は、急性疾患(風邪やケガなど)・慢性疾患(高血圧や糖尿病など)・予防医療(乳児ワクチンや健康診断など)・在宅医療を行って、地域のプライマリケアの一翼を担っていました。それがCOVID-19の流行でどう役割が変わったか、今後、多死社会・人口減少社会に加え気候変動による環境変化により、多様でかつ急速な変化がたびたび訪れると思います。なぜ我々が今回の変化に素早く応えられたのか説明しました。①状況に合わせて自分の役割を変えることができる「総合診療医」だったから。②感染すると休診せざるを得ない一人診療所と比べ、複数で行うことで 1 人が感染することでも事業継続は出来る「グループプラクティス」であること、③初期のコロナワクチンは、大量の人員を割いて一気に対応する必

要があり、一緒に地域の医療を支えていこうという「医療生協組合員 さん」の協力があっため短期集中実施が出来たこと、その3点を、組 合員さんからの説明も交え、報告させてもらいました。

現時点でも出口が見えなく、より様々な角度のプライマリな問題に落ちてきているコロナ問題ですが、最前線の医療従事者・住民と学生さんとの意見交換ができる機会を提供できて、良かったと思います。



■先輩からひと言

医療生協こうせい駅前診療所 医師 髙塚 淑子

(滋賀医科大学 医学科37期生) (当日は訪問診療のため参加できず)

在学中は春夏の宿泊研修に参加させていただきました。

滋賀医大に入学するまで、滋賀県には琵琶湖に数回来たのみで、滋賀県のことはほとんど知りませんでした。宿泊研修では各医療圏とともに名所旧跡にも訪問でき、滋賀県が身近になったような気がします。 参加当時は滋賀県で勤務することはまだ考えていませんでしたが、医療機関への訪問はのちに役に立ったと思います。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第1学年 迫 未尋

今回の研修で、実際の病院を訪れて、見て、 話を聞くことで大学の授業では出来ない経験 と、地域医療についての学びが得られてとて も良かったです。12月にあった病院研修で 大学病院がどのように成り立っているのか勉 強しましたが、それとは大きく違った、より 人々の生活と地域に根ざした病院の運営がな されていて、地域医療とはどういうものかに ついて理解が深まったと思います。また、病 院ごとに特徴があるということも、今回気が ついたことでした。最も印象深かったのは水 口病院で、私がこれまでに全く見たことのな い病院の雰囲気でした。精神科のことはこれ まであまり話を聞いたことがなかったので、 今回は新しいことをたくさん知り、見て、と ても良い機会でした。

滋賀医科大学 医学科第1学年 松山 峻大

「あなたがこれから大学で勉強していく上で、滋賀に求めることは何ですか」という質問を、先日とある方からいただいた。この時私は、せっかく滋賀医科大学に入学したというのに、滋賀のことを何も知らないのではないかと気づかされた。里親研修に参加して、実際に地域に赴き、現地の方々のお話や医の比地域に赴き、現地の方々のお話や医のお話を聞いたり、学生のお話を聞いたり、学生のお話を聞いたり、学生のお話を聞いたりではないかと意見を交換するなど、非常に貴重な経験をさせていただいた。その中で「滋賀で医験をさせていただいた。その中で「滋賀で医験をさせていただいた。その中で「滋賀で医験をさせていただいた。その中で「滋賀で医りながったのではないかと私は思めることの意義」を考え、自分の描入は思いたりではないかとないものがそこにはあった。

滋賀医科大学 医学科第6学年 景山 裕介

今回はコロナウイルスの蔓延により通常よ りも短縮された形で、近隣の病院機関を見学 させていただいた。甲賀地域の医療機関の業 務等はほとんど知らなかったので、今回の研 修を通じて紫香楽病院やこうせい駅前診療所 のコンセプトや仕事内容を理解することがで き、貴重な経験を得ることができた。今回の 研修で学んだ中で、特にこうせい駅前診療所 の設立経緯が大変興味深く、住民主体による 診療所の設立及び運営がなされていることに 驚いた。医療機関は選ぶものであって、住民 が運営にかかわるもとだという概念が自分に なかったので、医療生協という組織を知り、 その理念に触れることができたのが今回の研 修の一番の収穫だったと思う。卒後も滋賀県 にとどまり地域医療に関わっていくことにな ると思うので、今回の研修で学んだ医療機関 と地域住民との関わり方を大切にしていきた いと思う。

滋賀医科大学 医学科第2学年 山根 ほのか

研修では、信楽地域の散策と、こうせい駅 前診療所、公立甲賀病院を見学させていただ きました。

信楽の散策では、登り窯や信楽焼の説明を していただき、信楽地域の文化や歴史などに 触れることができたと思います。

診療所では、地域に密着した医療のあり方を学ぶことができました。診療所とは言うものの、住民と意見交換を重ねて作られた建物はかなり広く、院内の動線も余裕のある作りで、杖をかける場所など細部まで気配られていました。また、病児保育から高齢者向けの交流イベント、働く世代に配慮した診療時間など、幅広い世代に対して広義の医療が届けられているなと感じました。

甲賀病院では院内を案内していただきました。印象に残っているのがリハビリテーション室で、多くのスタッフが出入りするのが見受けられました。診療所から甲賀病院への移動の際にもリハビリテーション専門病院があるのが見えたため、やはり病気の治療だけではなく病後の日常生活復帰を支えるリハビリなどに力を入れていることが解りました。

|宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第1学年 小嵜 健吾

私は滋賀県出身でありながら、これまで一度 も甲賀や湖南に来ることがなかったため、今回 参加させていただき、初めて甲賀地域、湖南地 域について学ぶことが多くありました。こうせ い駅前診療所では生協組員の方と一緒に診療所 の運営やイベントの企画をされていました。 佐々木先生の「境界をつくらずになんでも診る、 できる限りのことはする」という言葉がとても 印象的でした。甲賀地域は人口当たりの医師数 が県内でも特に少ないといった医療の現状を知 りました。その中で病院ごとで診療科を分担し たり、滋賀医科大学と連携したり様々な工夫を されていると分かりました。公立甲賀病院では、 リハビリテーションが充実していて、治療後に 普段の生活に戻ってもらうところまで意識され ていて、回復期への移行の重要性を感じました。 今回は研修に参加させていただきありがとうご ざいました。



滋賀医科大学 医学科第3学年 丸岡 里菜

1回生の夏の宿泊研修ぶり、2回目の参加でした。日帰りのため、前回よりゆっくりと病院を見学する時間はなかったですが、その病院、地域の特徴を知れて良い機会となりました。1回生の時とは、目的も視点も少し変わり、今回は将来、滋賀で就職するのか、それとも他の都道府県で就職するのか、どんな人が働いているのかを中心に見学していました。滋賀で医師が偏在していること、日本の平均以下ということを意見交換会などで学び、また水口病院では適度見交換会などで学び、また水口病院では適度を言えた。自然が多く、信楽焼きなど、伝統を守りながら、暮らす甲賀・湖南地域を知れて、さらにこの地域の医療に興味がわきました。

滋賀医科大学 医学科第2学年 多賀谷 光

今回の研修で、私は信楽散策、水□病院、甲 賀病院を見学させてもらった。水□病院と甲賀 病院は、地理的な距離は近いが、その担う医療 の分野は大きく異なっていた。水口病院は、精 神科の単科病院であり、甲賀病院は地域の中核 病院であった。水□病院で印象的だったのは地 域の住人との関わり方についてである。精神科 の病院ということで、昔は腫れ物のような扱い を受けていたが、現在では地域のお祭りの開催 地となっているところを知り、医療と地域の関 わり方の模範例の1例を見ることができた。そ の職員の方々のホスピタリティに触れて、それ が可能になるのも頷けた。甲賀病院では、滋賀 医大に近い機能を担う病院であった。個人的に 驚いたのは、オフィス(デスクのあるゾーン) が充実していることである。研修医がくつろぐ ことが可能な部屋も用意されていて、卒後の研 修期間のイメージを描くことができた。非常に 学びのある研修であったので、ぜひ次の機会も 参加させていただきたいと思った。

滋賀医科大学 医学科第2学年 亀田 隼大

「病院見学って面白いな」と言うのが率直な感想です。医学部とはいえ、低学年だと具体的な病気の話はまだわからないので、病院見学はまだ少し先の話だと思っていました。しかし、滋賀の中だけでも様々な特色の病院があり、それぞれが住民の方々のために機能連携していみたいと感じました。このように感じることができたのも、見学に協力してくださった各病院の方々のおかげです。昨今の感染状況を踏まえると、見学が厳しい部分もあったと思うのですが、可能な範囲で尽力して下さったために、私たちは非常に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

■宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第2学年 八木 藍莉

私は今回、初めて春の宿泊研修に参加しました。参加を希望したのは、将来自分が働く 滋賀という地域の医療施設はどのようなところなのか見てみたかったことに加えて、コロナ禍でなかなか遠出ができない中で日帰り旅行ができる貴重な機会だと思ったからです。

私は紫香楽病院、こうせい駅前診療所、公立甲賀病院の3ヶ所を見学しました。紫香楽病院は国立病院機構に属し、重症心身障害や精神疾患、筋疾患、結核など、セーフティネット分野を含む医療を主に提供している病院でした。こういった医療は民間では難しく、そのためスタッフの方々が強い責任感を持って患者の方に向き合っていらっしゃる様子が印象的でした。

こうせい駅前診療所は地域の方々の意見を多く取り入れてつくられた病院で、午後診を遅くまで行っていたり、地域の人と触れ合うイベントを多く行っていたりする病院でした。コロナ禍でもワクチン接種や発熱外来を迅速に取り入れ、地域の人々の健康を守る活動を積極的に行っていて、こんな診療所が近くにあったらとても安心するだろうなと思いました。

公立甲賀病院は甲賀地域の医療を担う大病院として幅広い医療を担っているという点で滋賀医大とは異なる役割を担っている病院でした。私は夏に一度公立甲賀病院に見学に伺っており、非常に地域の人々に必要とされている病院であると改めて感じました。

本来であれば一日かけてみたい施設ばかりでしたが、コロナ禍でどの病院も一時間程度しか伺えず、しかも感染状況を踏まえて見学できる場所は限られていました。それでも、どの施設の方もオンラインで施設の様子を見せてくださったり地域の人の話を聞かせてくださったりと、少しでもわたしたちに医療の様子を見せようとしてくださり、非常に充実した研修でした。またこのような機会があればぜひ参加したいと思います。



滋賀医科大学 医学科第3学年 田中 耕大

私は里親制度に登録していないのですが、今回の目的地が紫香楽病院、水口病院ということで参加させて頂きました。研修の中で印象に残ったことは、精神科単科である水口病院が街の中心に存在したことです。精神科と言うと、世間一般からは少し距離を置いた印象がありましたが、水口病院にはそのような雰囲気は全く存在せず、むしろ病院ではないかのように感じられ、とても興味深いものがありました。

今年はコロナにより日帰りになってしまったことが悔やまれますが、来年は宿泊で研修に参加出来ることを楽しみにしております。 研修にご協力頂いた皆様、誠にありがとう ございました。

滋賀医科大学 医学科第2学年 今北 翔子

私は滋賀県の出身ですが、今まで信楽や甲賀には訪れたことがなかったので、今回の研修は興味深いものでした。地域散策では地元に根付いた産業を中心に学び、病院見学では地域の特性に沿った医療展開や地域への還元を見学させていいただきました。私は将来滋賀で働くつもりであり、この研修を通して知った甲賀地域や滋賀の医療について今後も知見を広げていきたいです。今回は半日の日程となってしまいましたが、甲賀地域を知る大変貴重な機会をいただきありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第2学年 湯上 弥穂

今回の研修では、紫香楽・水口・公立甲賀病院を見学しました。印象的だったのは、水口病院において、精神疾患を抱えた患者さんへ多様なサポートがあること、ならびに各医療従事者間での強い連携が取られていたことです。

またこの研修を通して、地域へ貢献するという意味がより実感を伴うものとして経験できました。大変貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

|宿泊研修に参加して(学生の声)|

滋賀医科大学 医学科第1学年 伊藤 槙

この度はこのような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。12月に附属病院を見学させていただいたばかりだったということもあり、お話の端々から地域との関わりを感じることが多く、地域医療について具体的に知ることができました。特に印象的だったのは、陶芸の森で信楽焼のスカーレットという赤色を拝見し、信楽焼の製造は建築用タイルが5割を占めていると伺ったあと、紫香楽病院の赤っぽい外壁を見て、これも信楽焼なのかも知れないと気付けたことです。

その気付きを通して、地域と共に支え合う 病院像というものが私の中にできあがったと 感じます。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 小藤 みなみ

里親研修は、入学前からぜひ参加したいと思っていた事業だったので、今回コロナで制限がある中でも開催していただき、参加することができて良かったです。病院ごとの地域医療への関わり方について、大学の授業では細かく聞くことができる機会が少ないので、今回見学させていただいたそれぞれの病院が地域の中でどのような働きをしているのか、病院ごとの特色について学ぶことができました。大学での意見交換会では、『医療の偏在』が問題になっていて、特に産科が不足していることを改めて知り、助産師になって地域でのお産を守りたいという思いがさらに強まりました。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 桐本 真里愛

コースの際、私は信楽散策とこうせい駅前診療所を選びました。実際に訪問した感想としては、どちらもとても楽しく、勉強になりました。コース選択は希望制なので、自分の意思で選択するのが大事だと思います。私が特に良かったと思うのは診療所の訪問でした。医療生協という特殊な形態で、地域の方々の意見を取り入れ、地域に根ざしたサービスを提供する所がとても素晴らしかったです。自身の将来を考える上でもとても参考になる点が沢山ありました。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 杉江 瑞穂

私は今回の研修で、信楽散策とこうせい駅 前診療所と公立甲賀病院に行きました。

信楽散策では、話やバスからの景色から、同じ滋賀県でも地域が違うと景色や近所との交流が異なっているということを改めて理解することができました。また、こうせい駅前診療所で医療生協という言葉を初めて知り、地域の方との関わりが深く安心して健康で暮らせるようなまちづくりを協力して行っていることを知ることができました。私は草津市に住んでいるので甲賀や湖南地域の医療現場について実際に話を聞いて知ることができ、少し地域が離れただけでも景色や医療体制が異なっていることを実感できるいい機会になりました。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 小出 彩未

研修を通して甲賀・湖南地域が持つ歴史や 文化を知るとともに、その地の医療体制や今 の現状について学ぶことが出来ました。実際 に現地に向かい見学やお話を聞くことで、こ れからの医療を支える一員としての自覚を感 じ、もっと地域医療について学びたいという 気持ちが強くなりました。半日という非常に 短い時間ではありましたが、滋賀が持つ魅力 を肌で感じる充実した一日を過ごすことが出 来たと思います。次回も是非参加したいです。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 白井 陽菜

宿泊研修を通して病院ごとの特徴や違いを身をもって実感することができました。私は1回生であまり病院に行く機会がなかったため、病院と地域の繋がりや授業では得られない知識を得ることができ大変勉強になりました。特に診療所はこれまで行ったことがなかったため新鮮に感じられ、地域と密接な関係があるということにとても惹かれました。将来どんな仕事がしたいのかなどを早くから考えるきっかけになりました。

今回の経験を活かしてこれから勉学に励み たいと思います。

■宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 看護学科第4学年 上田 歩里

信楽散策では、使えなくなった窯を「のぼり窯カフェ」として利用していたり、信楽焼のタイルは「町を支える産業」と話されていたりしていて、信楽の町の産業や観光について知ることができた。水口病院では、精神科デイケアや地域連携室など、地域に根差した精神科病院としての機能を果たしていると感じた。公立甲賀病院では、総合病院として地域住民を支えていると話されていたことが印象に残っている。工業地帯で外国人患者の多い甲賀市ならではの対応として、通訳や外国語パンフレットを活用していた。学内の勉強会では、医療者の数が足りないようなところでも医療を支えていくために、専門分野に特化しつつも、地域住民の日常的に起こる疾患等に対応できる裾野を広げた医療者が必要であることを学んだ。

滋賀医科大学 看護学科第4学年 谷口 涼音

散策や病院見学を通して、それぞれの病院が急性期や慢性期など役割分担がなされていることがわかりました。特に水口病院での開放的で明るい雰囲気のデイケアやリハビリ室が印象的でした。地域住民の方が利用しやすい医療を提供することが地域医療の充実に重要であると感じました。また、各医療機関が役割に応じた連携をすることによって広い甲賀市・湖南市方面の地域医療をスムーズに提供していることを学びました。

身近な甲賀市・湖南市方面の地域を医療という視点を通して見ることによって、新しい発見、学習をするとともにより身近に感じられます。今回の研修も多くのことを学ばせていただきありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科第4学年 池田 はるか

コロナ禍の状況で実習を受け入れていただ きありがとうございました。

紫香楽病院ではリモートで病棟見学をしました。光やアロマでリラックスできる部屋など患者さんが生活する空間を大切にされていると感じました。患者さんと接するときはまず視界に入って自分がここにいると示してからタッチング、重心患者さんそれぞれの反応を知るなど長く患者さんと関わる中でそれぞれの患者さんの特徴を知り信頼を築くとおっしゃっていた点が印象に残りました。

今回が学生として最後の里親研修参加となりました。4年間で滋賀県各地の医療体制について学習したことを4月から滋賀県の保健師として働くなかで活かしていきます。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 平松 淳沙

今回の研修では病院の見学だけでなく、信 楽の散策も出来て地域のことについて深く学 ぶことが出来ました。信楽焼の特徴や由来な ど滋賀に住んでいても知らなかったことを学 びました。またこうせい駅前診療所では地域 住民の方との交流が多くあり、地域に根ざし た診療所であることを知り、まさに地域医療 を体現されていると感じました。甲賀病院で は看護部の方に案内していただき、急性期に 関わる場所や訪問看護についても教えていた だき、充実した時間となりました。その後の 勉強会でも甲賀病院の院長からお話しいただ いたり、他の場所に行った方からの報告を聞 いたりして、それぞれの病院について知るこ とが出来ました。今後また研修があれば参加 したいと思いました。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 中岡 史奈子

今回の宿泊研修で私はこうせい駅前診療所と公立甲賀病院を見学しました。本学附属病院は、最先端医療を主とした大学病院ですが大学や附属病院では学べない地域医療を直に学ぶことができ非常に有意義な時間となりました。特にこうせい駅前診療所では地域住民とともに診療所を作るという私にとっては新しい概念を取り入れることができました。私は看護学科に在籍しているため地域住民の方々と密に関わり地域の活性化にも繋がる診療所での看護師の役割について考えさせられるとても良い機会となりました。

将来の進路として地域医療という選択肢も 視野に入れつつ勉学に励んでゆきたいと思い ました。

滋賀県医師ギャリアサ

(滋賀県地域医療支援センター) 当センターは滋賀県健康医療福祉部医療政策課と滋賀医科大学医学部附属病院が共同で設置し、 滋賀医科大学医学部附属病院には専任医師を配置して医師のキャリアサポートを行っています。

医師としてのキャリアアップや、仕事を続けていく上での色々な悩みなどを相談でき る場として開催しています。どなたも参加可能ですので、ご興味のある方はぜひご刻 加下さい。ZOOMも併用し、遠方からでも参加可能となっております。

2022年度 第1回

女性外科医師の歩みと医師会の役割

講師:木築 野百合先生 (きづきクリニック)

日時: 令和4年6月2日休16:30~



先生の今までの歩みや、男女共同参画の推進、医師会の働 きについて、実体験やお得な情報などを交えつつ楽しくお話 しいただきました。

先生の明るいお人柄もあり参加者の皆様より大変ご好評い ただきました。

- ・先生のお人柄が分かり楽しかったです。医師会 のこともよく知らなかったので知る機会になっ てよかったです。
- 医師の内情など今までに聞いた事がない話も多 く興味深かったです。



学生の感想

2022年度 第2回

大学病院で働く医師のキャリア形成 ~専門医って何?学位って必要?国内留学ってどうやるの?~

講師:佐藤 知実先生

(滋賀医科大学医学部附属病院 小児科)

日時: 令和4年7月12日以16:30~



滋賀県初の小児リウマチを専門とする医師として、母校で ある滋賀医大に新たに小児リウマチ外来を開設するまでの歩 みや、専門医、学位取得、国内留学について、とても楽しく お話しいただきました。

- ・大学での研修から学位取得までのお話を聞くこ とができ、大変参考になりました。
- ・医師になりたての時にやっておくべきことを教 えてもらえたので今後の参考にしようと思いま
- 学位をとることのメリット、デメリットが分か りやすかったです。



◆◆懇談会開催予定◆◆

第3回 令和4年11月29日以18:00~

場所:滋賀医科大学 臨床講義室1

講師:矢野 裕一朗先生

(滋賀医科大学NCD疫学研究センター)

第4回 令和5年1月頃予定

場所:滋賀医科大学内会議室等(未定)

講師:大町 怜雄先生 (彦根市立病院

外科専攻医/自治医科大学卒)

お問い合わせ先

滋賀県医師キャリアサポートセンター

滋賀医科大学クオリティマネジメント課内(附属病院 4階)

住所: 〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL: 077-548-2826

E-mail: ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

相談窓口も設置しています。 詳しくはキャリサポHPをご覧ください。

もっと詳しく▶

滋賀県医師キャリアサポートセンター https://www.shiga-med.ac.jp/~ishicsc/



滋賀県では、将来県内で地域医療に貢献する意思を 持った医学生に対して、以下の取組を実施しています



◆医学生向け貸付金



| 資金名 | A 滋賀県医師養成奨学金 | B 滋賀県医学生修学資金 | | | | |
|---------|---|---|--|--|--|--|
| 募集人員 | 11名 | 6名 | | | | |
| 貸与対象者 | 滋賀医科大学医学部入学者 | 全国の医学部3年生 (滋賀医大生も可) | | | | |
| 募集時期 | 滋賀医科大学医学部入学時 | 医学部3年生在学時 | | | | |
| 貸与期間/金額 | 1年生~6年生(6年間) | 3年生~6年生(4年間) | | | | |
| | 年額180万円 (総額1,080万円) | 年額180万円 (総額720万円) | | | | |
| 返還免除条件 | ・県内医療機関に9年間勤務すること (6年目以降の4年間は知事指定医療機関で勤務)・キャリア形成プログラムに参加すること(次ページ参照) | ・県内医療機関に6年間勤務すること (5年目以降の2年間は知事指定医療機関で勤務)・キャリア形成プログラムに参加すること(次ページ参照) | | | | |
| 県の指定病院 | 県保健医療計画上一定の役割のある県内病院から指定 ※原則、医師の不足する地域の医療機関での勤務を指定 | | | | | |

- ★上記の貸付金制度は、県内医療機関への就業義務の履行を

 一時中断し、大学院への進学や国内外の医療に関する研修の参加、

 県外勤務を行うことも可能です。
 - ※一時中断の期間は上限があります。
 - A 医師養成奨学金 最大8年間 (大学院進学 最大4年 + その他の事由 最大4年)
 - B 医学生修学資金 最大7年間(大学院進学 最大4年 + その他の事由 最大3年)
 - ※返還事由に該当したときは、貸与した資金を利息とともに一括で返還いただきます。

〈A 医師養成奨学金〉

| (八 区即民风天于亚/ | | | | | | | | |
|---|---|--|--|--|--|--|--|--|
| 在学中 | 就業義務期間中 | | | | | | | |
| 1 2 3 4 5 6 | 1 2 3 4 5 6 7 8 | 9 | | | | | | |
| 180万 180万 180万 180万 180万 円 円 円 円 円 円 | 临床研修 - 巴内海院での勤経 - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 県内医療機関のうち、知事が指定する病院で勤務 ※原則、医師の不足する地域の医療機関での勤務 | | | | | | |
| キャリア形成卒前支援プランによる支援 キャリア形成プログラムによる支援 | | | | | | | | |

〈R 医学生修学資金〉

| | 少于只亚/ | | | | | | | | |
|-------|--------|--------|-------|----|--------------|----|--|--------------|---|
| 在学中 | | | | | | | 就第 | 美務期間中 | |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 180万円 | 180万円 | 180万円 | 180万円 | 臨床 | R研修 県内病院での勤務 | | 県内医療機関のうち、知事が指定する病院で勤務 ※原則、医師の不足する地域の医療機関での勤務 | | |
| | | | | | | | | | |
| キャリア形 | 成卒前支援。 | プランによる | 支援 > | | | キャ | リア形成プロ |]グラムによる支援 | > |

◆キャリア形成プログラム(卒後)

【キャリア形成プログラムとは】

以下の①、②の両立を図る制度です。

- ①対象医師のキャリア形成を支援し、滋賀県の地域医療を支える人材を育成すること。
- ②医師が不足する医療機関への医師を派遣することにより、県内の医師偏在を解消すること。

<u>滋賀県医師キャリアサポートセンターが対象医師と面談し、県内で希望するキャリア形成ができるよう</u> 支援します。

【参加対象者】

- ・地域枠(※)で入学し、卒業した医師(=Aの被貸与者)
- ・プログラム適用を希望する医師等(Bの被貸与者を含む)
 - ※地域枠とは、一般の入学者とは別枠で滋賀医科大学に入学する者で、以下の従事要件が課せられる入学枠です。
 - ・卒後9年間、県内で従事する。
 - ・キャリア形成プログラムに参加する。

◆キャリア形成卒前支援プラン(在学中)



【キャリア形成卒前支援プランとは】

地域医療へ貢献する意思を持つ医学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の向上を図り、 地域医療に貢献するキャリアを描けるよう支援するプランです。

【参加対象者】

- ・地域枠で入学した学生(=Aの被貸与者)
- ・キャリア形成プログラムの適用に同意した学生等(Bの被貸与者を含む)

【プラン内容(例)】

- ・ 県内で活躍する先輩医師等を講師として招き、キャリア形成や地域医療への貢献、滋賀県で働く魅力 等について話を聞く機会を設ける。
- ・一泊二日の宿泊研修を行い、地域の医療機関に勤務する医師や看護師、地元住民の方と直接交流する機会を設ける。

◆お問い合わせ先

滋賀県 健康医療福祉部 医療政策課 医療人材確保係



詳しくはこちら→ [

入会・ご客附のご案内

皆様からの会費とご寄附金を財源として活動を進めてまいります。出費がかさむ折とは存じますが「地域医療を担う医学生看護学生の育成支援事業」にご支援いただける方々のご協力をお願いいたします。

会員は

| 会員の種類 | | | 会 | 入会金 (初年度のみ) |
|-------|---|---|-----------------------------|----------------|
| 正会員 | 個 | 人 | 年会費 2,000円 + 寄附金 3,000円以上 | 5,000円 |
| | 団 | 体 | 年会費 5,000円 + 寄附金 5,000円以上 | 10,000円 |
| 賛助会員 | | | 毎年 1,000円以上 できましたら 3,000円以上 | |

ご寄附・賛助会費をご入金された方は「税制上の優遇措置」【寄附金控除、または寄附金特別枠控除(税制控除)】を受けることができます。

ご入金された方には「寄附金の受領書」を郵送しますので大切に保管いただき、確定 申告時には、「申告書」に「寄附金の受領書」を添え最寄りの税務署にご提出ください。 なお、詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。

編集後記

今号では、2年ぶりに実施された春の宿泊研修(甲賀市・湖南市)を特集させていただきました。また、8月には新型コロナウイルス感染拡大のため急遽オンライン配信になりましたが、夏の宿泊研修(彦根市・米原市方面)も実施することができました。

これまでに、25回の宿泊研修で400人以上の医学生・看護学生が、 自主的に参加してくれました。学生時代に参加された医師・看護師の 方が研修先で活躍されていることも増え、活動の広がりを感じていま す。ご協力いただいた医療機関をはじめ地域の皆様に、心より感謝申 し上げます。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.20

発 行:2022年9月30日

編 集:NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 所 在 地:滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内

TEL: 077-548-2168

URL: http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/